「元気発進！子どもプラン（第２次計画）」個別事業の評価一覧

■ 施策（10）子ども・若者の自立や立ち直りの支援

事業の評価																		予算			担当課
		【Plan】計画				【Do】実施							【Check】評価		【Action】改善	予算					※太字が評価を記載した課
柱番号	事業番号	事業名	事業概要	前年度の評価を踏まえての改善	28年度の事業計画	28年度の主な実績	活動指標	区分	27年度	28年度	29年度	評価	評価の理由（分析）	次年度以降の課題や改善内容	予算事務事業名	決算額・次年度予算額【千円】		備考	
1	228	若者のための応援環境づくりの推進	若者向けホームページや「北九州市子ども・若者支援地域協議会」の運営、ユースアドバイザー養成講習会の開催など、若者を総合的にサポートする環境づくりを推進する。	・若者向けホームページについては、困難を抱える若者や、支援者向け情報発信も行うなど、機能の充実を図る。 ・子ども･若者支援地域協議会の運営やユースアドバイザー養成講習会の充実に努める。	①若者応援サイト「YELL」や結婚情報提供サイト「Life」の充実 ②ユースアドバイザー養成講習会のプログラムの充実	①アクセス数 17，067件 ②講習会プログラム 12項目	若者向けホームページへのアクセス数 【現状値】 22,986件（H26年度） 【目標】 現状維持	単年度目標	前年度（22,986件）比同水準	前年度比同水準	前年度比同水準	順調	・体験情報冊子へのQRコード表示など、広報等に努めた結果、若者応援サイト「YELL」全体のアクセス件数が増加したことから、「順調」とした。	・北九州市若者応援サイト「YELL」の内容充実に努める。 ・「北九州市子ども・若者支援地域協議会」の着実な運営、また、「ユースアドバイザー養成講習会」の内容の充実を図り、若者の応援環境づくりを推進する。	・若者のための応援環境づくり推進事業 ・不登校等の困難を抱える子どもたちへのアウトリーチ事業	決算	2,430		子家・青少年課
								単年度実績	16,872件	17,067件						予算	5,521		
								達成率	73%	101%									
								計画目標達成率	73%	74%									
1	229	子ども・若者応援センター「YELL」の運営	子ども・若者応援センター「YELL」を拠点とし、社会生活を円滑に営む上で困難を抱えている子どもや若者の自立を応援・支援する。	・継続的に悩みや課題を抱える子どもや若者を総合的にサポート（コーディネート）していく。 ・相談事業に加え、コーディネーターを中心に、NPO等との連携を図りながら、若者の自立に向けたステップアップに繋がるプログラムの提供を行う。	①自立に向けたプログラムの充実	①プログラム参加者 1，201人（農業体験や仕事体験、ボランティアなど）	就労体験参加者数 【現状値】 416人（H26年度） 【目標】 現状維持	単年度目標	前年度(416人）比同水準	前年度比同水準	前年度比同水準	大変順調	・体験プログラム参加者も、就労体験参加者数も目標値を上回ったため、「大変順調」とした。	・相談者の状況に応じて、適切な時期に的確な支援機関につなぎ、相談者がより一層円滑に支援が受けられるようにする。 ・自立度に合わせた体験プログラムの充実が課題であり、内容の見直しのほか、連携先の開拓、新規メニューの開発など、関係機関ともさらに連携して研究に取り組む。	・子ども・若者応援センター「YELL」運営費 ・子ども・若者応援センター「YELL」管理費	決算	24,036		子家・青少年課
								単年度実績	363人	580人						予算	23,630		
								達成率	87%	160%									
								計画目標達成率	87%	139%									
1	230	ひきこもり地域支援センター「すてっぷ」の運営	ひきこもりの問題を抱えた当事者や家族等の電話相談や来所相談、訪問支援、フリースペース等を提供することで、ひきこもり当事者が社会に参加し、いきいきと自分らしく暮らせることを目指す。	・引き続き、利用者のニーズに沿った事業を継続する。 ・前年度に引き続き、来所相談、電話相談、フリースペースを実施する。	①ひきこもりの問題を抱えた当事者や家族等の来所相談 ②ひきこもりの問題を抱えた当事者や家族等の電話相談 ③ひきこもりの問題を抱えた当事者や家族等の訪問相談 ④フリースペースの提供	○ひきこもりの当事者、家族からの相談延べ件数 1,975件 ○ひきこもりの当事者、家族からの相談実人数 298人	ひきこもりの当事者、家族からの相談延べ件数 【現状値】 1,510件（H25年度） 【目標】 現状維持	単年度目標	前年度（H26年度1,749件）と同水準	前年度比同水準	前年度比同水準	大変順調	・ひきこもりの当事者、家族からの相談延べ件数は順調に増加しているため、「大変順調」であると判断した。	・活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行うことが必要である。 ・引き続き、利用者のニーズに沿った事業を継続する。また、前年度に引き続き、来所相談、電話相談、フリースペースの提供を実施。	ひきこもり地域支援センター事業	決算	12,019		保福・障害者支援課
								単年度実績	1,518件	1,975件						予算	12,186		
								達成率	87%	113.0%									
								計画目標達成率	87%	113.0%									
1	231	社会的ひきこもり対策事業	さまざまな要因によって社会的な参加の場面がせばまり、自宅以外での生活の場が長期にわたって失われているひきこもりの中でも、背景に精神疾患や発達障害がないとされる「社会的ひきこもり」の状態にある人たちが自立できるよう支援と体制づくりを目指す。	・「ひきこもり地域支援センター」をはじめとする各関係機関との連携を進めながら、より効率的に事業を進める。	①支援者向け研修会開催 ②市民向け講演会開催 ③家族教室開催 ④実務者連絡会の開催	①支援者向け研修会開催 98名参加 ②市民向け講演会開催 65名参加 ③家族教室開催 延56名参加 ④実務者連絡会の開催 延68名参加	家族教室の参加者数（延べ） 【現状値】 86名 平成26年度 【目標】 各年度延60名程度	単年度目標	60人	60人	60人	順調	・家族教室の参加者数はおおむね目標値を維持しており、関係機関と連携を取りながら事業を進めることできていることから、「順調」とした。	・今後も「ひきこもり地域支援センター」をはじめとする各関係機関との連携を進めながら、より効率的に事業を進める。	社会的ひきこもり対策事業	決算	702		保福・精神保健福祉センター
								単年度実績	62人	56人						予算	862		
								達成率	103%	93%									
								計画目標達成率	103%	93%									

■ 施策（10）子ども・若者の自立や立ち直りの支援

事業の評価																予算			担当課
【Plan】計画						【Do】実施						【Check】評価		【Action】改善	予算				※太字が評価を記載した課
柱番号	事業番号	事業名	事業概要	前年度の評価を踏まえての改善	28年度の事業計画	28年度の主な実績	活動指標	区分	27年度	28年度	29年度	評価	評価の理由（分析）	次年度以降の課題や改善内容	予算事務事業名	決算額・次年度予算額【千円】	備考		
1	232	ユースステーションの運営	中・高校生をはじめとした若者が、学習や体験、スポーツ文化活動、仲間との交流等を通じて、自己を発見し、社会性や自立性を身に付ける場となるよう「ユースステーション」の運営を行う。 こうした新たなニーズへの対応について、運営形態や設置場所などを含め、青少年施設のあり方の中で検討を進める。	・平成28年度から指定管理者制度を導入した。民間の発想を生かして、主催事業に加え、若者が積極的に自主事業ができるよう支援する。	①主催事業の充実 ②自主企画事業の支援	①36回実施 （アウトドアクラブや、コミュニケーション講座など） ②4回実施 （音楽ライブなど）	若者向け事業への参加者数 【現状値】 914人 （H25年度） 【目標】 1,500人	単年度目標	前年度（1,525人）比同水準	前年度（2,513人）比同水準	前年度比同水準	**順調**	・指定管理者制度を導入し、新たな主催事業も開催され、参加者数は前年度比増となったため、「順調」と判断した。	・指定管理者制度を導入し、施設利用者数が増加する効果が見られたが、今後も、民間事業者のノウハウやネットワークを活用し、利用者サービスの向上を図る。	青少年施設運営管理事業（指定管理）の一部	決算	279,799		**子家・青少年課**
								単年度実績	2,513人	2,811人						予算	280,691		
								達成率	165%	112%									
								計画目標達成率	167%	187%									
1	233	若年者就業促進事業	「若者ワークプラザ北九州」の運営により、概ね40歳までの若年求職者に対して、就職関連情報の提供、就業相談や職業能力向上のための講座・セミナー、希望や適性に合った職業紹介等を実施し、地元企業への就職を促進する。	よりきめ細かなカウンセリングを実施するとともに希望や適性にあった職業紹介を実施する。	①求職者と企業のミスマッチ解消のため、市、求人開拓員、カウンセラーでの連絡会議を定期的に開催し、求職者のニーズに合う求人の獲得とマッチングに努める。 ②求職者情報（匿名）をまとめたリストを作成し、求人開拓員が企業に対して求職者をPRする。 ③セミナーの内容や開催頻度等の見直し、広報の充実について検討する。	①連絡会議を定期開催 ②求職者リストの作成 ③セミナーの内容や開催頻度等の見直し、広報の充実について検討した。 〇就職決定者数 1,122人	就職決定者数（人） 【現状値】 就職決定者数 1,122人 （H28年度） 【目標】 毎年1,200人 平成28年度以降の目標値は「まち・ひと・しごと総合戦略」に合わせて就職決定者数とする。	単年度目標	現状値（1,200人）と同水準	1,200人	1,200人	**順調**	・平成28年度の若者ワークプラザ北九州の実績は、目標数値に到達しなかったものの、94％と概ね予定どおりであるため、「順調」とした。	・昨今、有効求人倍率が1.4倍を超え求職者有利の状況になっている。当該施設の利用者の中には求職活動が長期化している方もいることから、求職者に寄り添ったカウンセリングの実施やセミナーの開催、希望や適性にあった職業紹介の実施などを通じて早期就職につなげていく。 また、市内及び市近辺の大学や専門学校等を訪問し、当該施設の支援内容やセミナー開催等を周知すると共に利用を呼びかけ、在学中の学生や第二新卒者などの新規利用者の開拓にも努めていく。	若者ワークプラザ北九州運営事業	決算	77,272		**産経・雇用政策課**
								単年度実績	1,070人	1,122人						予算	71,800		
								達成率	89%	94%									
								計画目標達成率	89%	94%									
2	234	北九州市青少年支援拠点「ドロップイン・センター」の運営（北九州市「青少年の非行を生まない地域づくり」推進本部運営事業）	深夜はいかいを繰り返す青少年をさまざまな危険や誘惑から守り、その立ち直りを支援するため、はいかいしている青少年への声かけや相談対応、さらには警察や立ち直り支援機関との情報共有を図ることで非行や事件から青少年を守る、北九州市青少年支援拠点「ドロップインセンター」を運営する。	・青少年の非行防止を一層推進して行くために、警察や関係機関との連携をより強化しながら、継続して施設の運営を行っていく。	①ドロップイン・センターの年間を通じた開所及びパトロールの実施	①　365日/年	ドロップイン・センターが行う夜間パトロールでの、声かけ件数 【現状値】 1,416件 （H26年度） 【目標】 現状維持	単年度目標	前年(1,416件）同水準	前年同水準	前年同水準	**順調**	・ドロップイン・センターの運営を、青少年の非行防止に熱意あるNPO法人に委託することで、その経験や知識を生かした夜間パトロール活動や「居場所づくり」がなされている。 ・重篤化が懸念される非行事案などに対しては、警察をはじめ、子ども総合センターなどの関係機関と情報を共有することで連携し、迅速に対応している。 以上により、「順調」と評価した。	・深夜はいかいをしている青少年に帰宅や危険回避を促すことで非行や事件から青少年を守り、また、深夜はいかいを繰り返す青少年の相談に乗る居場所づくりも行っている。 ・今後も、青少年の非行防止を一層推進して行くために、警察や関係機関との連携をより強化しながら、継続して施設の運営を行っていく必要がある。	「北九州市『青少年の非行を生まない地域づくり』推進本部」運営事業	決算	33,695の一部		**子家・青少年課**
								単年度実績	1,621件	1,460件						予算	38,000の一部		
								達成率	114%	90%									
								計画目標達成率	114%	90%									

■ 施策（10）子ども・若者の自立や立ち直りの支援

事業の評価															予算			担当課
【Plan】計画						【Do】実施						【Check】評価		【Action】改善	予算			※太字が評価を記載した課
柱番号	事業番号	事業名	事業概要	前年度の評価を踏まえての改善	28年度の事業計画	28年度の主な実績	活動指標	区分	27年度	28年度	29年度	評価	評価の理由（分析）	次年度以降の課題や改善内容	予算事務事業名	決算・次年度予算額【千円】	備考	
2	235	協力雇用主と連携した就労支援（北九州市「青少年の非行を生まない地域づくり」推進本部運営事業）	非行歴のある青少年の就職促進や、その受け皿となる協力雇用主の拡充を、福岡保護観察所と協働しながら図って行く。 また、協力雇用主が、雇用した少年から損害を受けた場合に見舞金を支給する制度を運営するとともに、関係機関が実施するボランティア活動や就労体験などの各種プログラムを支援することで、協力雇用主制度への理解を促進する。	・登録している協力雇用主の業種には偏りがあるため、非行歴のある青少年が就職先をより選定しやすく、就労意欲が生まれるよう、登録業種の拡充を図って行く。	①協力雇用主を対象とした幹事会・研修会・シンポジウムの開催 ②協力雇用主見舞金制度 ③非行少年を対象とした社会参加体験	①各種会議などの開催 ・幹事会 ・シンポジウム ・保護観察所との協議 ・保護司会との合同会議 ・緑化協会に対しての協力雇用主制度PR ②協力雇用主見舞金制度 ・活用件数　1件 ③社会参加体験 ・老人施設の草抜き ・農事センターでの野菜収穫 ④「協力雇用主就労支援ハンドブック」の作成	協力雇用主登録業者数 【現状値】 81社 （H25年度） 【目標】 増加	単年度目標	前年度（95社）比増	前年度比増	前年度比増	順調	・協力雇用主を対象とした見舞金制度や表彰制度、市登録業者の入札資格審査における加点制度の取り組みを通じて、非行少年の雇用の受け皿となる協力雇用主の拡充を図った。 ・協力雇用主が活動しやすい環境づくりを実施しており、市の取り組みに対しては協力雇用主会から高い評価を得ている。 ・保護観察所と協働して「協力雇用主就労支援ハンドブック」を作成し、協力雇用主制度への理解促進を図った。 ・保護観察所と協働して、各区の保護司との連携促進を開始。 保護対象少年に対しての、より効率的かつ効果的な就労支援の取り組みを推進している。 以上により、「順調」と評価した。	・現況、登録している協力雇用主の業種には偏りがあるため、今後は、非行歴のある青少年が就職先をより選定しやすく、就労意欲が生まれるよう、登録業種の拡充を図る。 ・非行少年の就労意欲を育むことで、就労先が居場所となり、より立ち直りを支援できるよう、保護観察所と協働して効率的かつ効果的な仕組みづくりの構築を図る。	「北九州市『青少年の非行を生まない地域づくり』推進本部」運営事業	決算	33,695の一部		子家・青少年課
								実績	156社	185社						予算	38,000の一部		
								達成率	164%	119%									
								計画目標達成率	164%	119%									
2	236	非行少年の立ち直り支援と体制強化	非行少年の立ち直りと自立を促進するため、学校、警察、地域等と連携して非行少年およびその家庭への支援を積極的に行う。また、教育委員会や警察等の関係機関と非行相談連絡会議を定例開催し、教育・福祉の視点に立った取り組みを実施する。	・関係機関、地域等と連携して、非行少年およびその家族への支援を積極的に行う。	①非行相談に対応する。 ②非行相談会議を開催する。	①　107件 ②　10回	非行相談対応件数 【現状値】 109件 （H26年度） 【目標】 ―	単年度目標	単年度目標なし	単年度目標なし	単年度目標なし	順調	・非行少年の立ち直りに向け、実務的かつ緊密な行動・情報の連携を行うため、関係機関と非行相談連絡会議を毎月開催し、教育・福祉的な視点に立った即時的な対応、連携した取り組みを図ることができたことから、「順調」とした。	【課題】 非行少年の立ち直りと自立の促進 【改善】 引き続き、関係機関や地域と密接に連携し、積極的に取り組む。	非行少年の立ち直り支援と体制強化事業	決算	372		子家・子ども総合センター
								実績	81件	107件						予算	560		
								達成率	―	―									
								計画目標達成率	―	―									
2	237	少年支援室の運営	不登校やひきこもり、非行等の悩みを抱える少年を通所させ、生活習慣の確立や自学自習、集団適応指導等のさまざまな少年の状態に応じたきめ細かな支援活動を行い、学校や社会への復帰を図る。	・支援活動を進めるとともに、少年支援室の機能の充実に取り組む。	①面接や電話での相談に対応する。	①面接・電話相談対応件数 41,038件	相談件数 【現状値】 48,794件 （H26年度） 【目標】 ―	単年度目標	単年度目標なし	単年度目標なし	単年度目標なし	順調	・不登校や非行等の少年の通所施設として、社会や学校への復帰をめざし、生活習慣の確立や自学自習のための援助を行った。 ・コンビにやカラオケボックスなどへの立入調査を行うなど、少年非行防止の啓発活動も積極的に取り組んだことから「順調」とした。	【課題】 ・これまでの活動を着実に進めるとともに、さらに効果的な運営を図る必要がある。 【改善】 ・少年支援室の設備・環境・機能の充実を図る。	少年支援室運営費	決算	9,644		子家・子ども総合センター
								実績	44,199件	41,038件						予算	11,749		
								達成率	―	―									
								計画目標達成率	―	―									